

**令和5年度文京区アカデミー推進協議会  
第1回分科会(学習活動分野)概要記録**

日 時	令和5年8月3日(木) 18:25~20:15
会 場	文京シビックセンター17階 1701会議室
出席委員	座長 田中 雅文 増田 純、三浦 武裕、東田 英輔、五十嵐 幸輝
欠席委員	-
事務局	高橋アカデミー推進部長、矢島アカデミー推進課長、 宇津木真砂中央図書館長、石川アカデミー文京所長（シビックホール館長兼務）、眞野アカデミー推進係長
資 料	次第、令和5年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1号、資料第2-2号
(議事) 1 議題  ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 令和4年度の事業実施状況の点検・評価について</p> <p>① <u>分野別基本方針 だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。</p> <p>◎他分野の方より、「区内まるごとキャンパスに」という基本理念のもと、大学をもっと活用できると思う。アカデミア講座、各大学の市民講座の他に、単発の無料講座等をまとめて周知してほしい。また、区と大学がボランティア講座を開き、目や耳が不自由な学生をサポートに繋げていければと思う。」との意見をいただいた。</p> <p>◎事業周知の範囲とは、何を意味しているのか。図書館の書籍について、どのような特集を組んでいるのか。また、夜間・休日の講座開設で、社会情勢をとらえた講座の選定とあるが、そのために必要なことは何か。定量的なものの変化をみて評価を行う趣旨は理解できるが、評価の基軸となっている事業は有料のものが多い。行政サービスとして行なっている、無料の講座・講演会・講習会などについてもその取組状況の把握と定量的評価が必要ではないか。</p> <p>◆事業周知については、出す媒体と受け取る媒体のミスマッチが発生しており、プッシュ型の広報が必要である。メールマガジン、ライン、ツイッターなどの活用を財団でも研究している。実際にラインを活用しているが、登録してもらう必要があるため、工夫していきたい。また、夜間・休日の講座開設に社会情勢を踏まえる点については、平日に来ることのできない現在就労中の人も興味を沸くようなスキルアップ等の講座を選んでいきたい。社会情勢を含めて、講座の内容をセレクトしていければと考えている。</p> <p>◆図書館書籍の特集については、利用者が特集の展示を通じて、新しい資料に出会うことを目的に、季節に応じて多種多様なテーマで、年間を通して各館で特集展</p>

示を1200回ほど実施しており、森鷗外没後100年事業で関連図書をまとめたものや、正岡子規、樋口一葉などゆかりの文人イラストのしおりの配布PRが大変好評だった。また、小石川に事務所があるジャーナリストの立花隆さんの書棚再現も大変好評であった。季節の特集では実際に開催中のイベント、例えば女子ワールドカップに併せたサッカー関連資料の展示などが挙げられる。

小石川図書館には、2万点ほどのレコードを所蔵しており、定期的にレコードコンサートを開催し、直近では50～60人ほど参加している。特集展示以外にも、こどもの読書活動の推進のため、保護者等に対する啓発が大切だと考えており、福音館書店の「こどものとも」の制作の裏側を編集者が紹介するイベントには、多くの方が参加した。今後も、アンケート等を参考に、特集・行事を改善し、図書館資料の貸出増につなげていきたい。

◎生涯学習の相談にある「情報も紹介しました。」という点については、当初は資料があまりなく、アカデミー推進課にお願いしたところ、パンフレットを集めたり、運んでくれたことにより、スムーズに相談業務ができているため、その点も評価に値するのではないか。また、アカデミア講座で定員が満たないものはどのようなものか。

◆一部定員割れのアカデミア講座について、専門的な講座ほど定員割れしやすい傾向にある。内容をイメージしやすい講座は、人が集まりやすいが、専門的な講座内容になると広報の小さいスペースでは表現が難しいこともあり、なるべくわかりやすく記載していきたい。なお、区としては、定員が満たなくとも、実施する意義のある講座についてはやるべきと考えているため、数字だけでは判断できない部分がある点をご理解いただきたい。

◎区民プロデュース講座のクオリティは高く、これ以上クオリティを上げることは難しいと考える。そのため本事業をより深めるという意味では、周知方法に注力することに尽きると思う。区の様々なセクションとコラボし、周知していく必要がある。さらに、単なるアカデミーの充実を目指すアプローチだけでなく、フレイル対策といった喫緊の社会課題など、具体化していくことが重要だと考える。

◆フレイル対策や、有料事業、無料事業の評価について、資料第2-2号には本計画に掲載の有料・無料、福祉など全庁の事業を掲載している。その中で、どの事業を主要事業とするかは、考え方を整理したうえで設定している。また、フレイルといった福祉事業については、地域福祉保健計画でも進行管理しており、同計画と本計画の両面で進行管理している状況である。広報についてはツイッター、フェイスブックも利用しているが、アクセス数が伸びない点が課題である。刀剣乱舞とのコラボや藩校サミットの記念事業といったものは、10万単位でアクセスがあり、有効だったものもいくつかあるので、今後もアイデアなどご意見を頂戴し、広報に努めたい。

◎周知に関し、一番に浮かぶものがSNSで、端的に短く伝えることのできるツイッター

は、現実的で費用も掛からず良いと考えるので、あとは使い方を考える必要がある。文京eラーニングにジャンルの偏りが感じられる。とくに文京区の特色ではあるが、歴史、文学が多いと感じた。多くのニーズを取り入れるためには、科学、芸術、法律、経済といったアイコンから分野を選べる形式を導入するとアクセスを増やすことができると思う。

また、大学生は映像授業に慣れていることもあり、権利の問題もあると思うが、大学の授業とのコラボにeラーニングを利用できれば良いのではないかと。

さらに、図書館資料は電子書籍を含め積極的に取り組んでいる印象を受けた。他方で、本を読みに行こうという気持ちにさせることが重要であると感じている。たとえば読むスペースや椅子、明るさ、おしゃれな雰囲気など、若い人が足を運びやすいカフェで読書ができるような環境づくりが大切であると考え。

◎図書館の雰囲気づくりについては、武蔵野市の「武蔵野プレイス」のような館内のカフェで本を読めるような環境があるとよいといった意見ではないかと思う。図書館の環境づくりについては、一方でコストもかかるが、ごもっともな意見だと思う。

講座については、かなり充実していると評価できる。さらに、相談業務についてもしっかりしていて、他の地域と比較しても、学習相談で年間170件は大変多く、相談業務が充実しているからであり、非常にいい点だと評価ができる。

13ページの基本方針の4項目の中で、「エ 地域の学習拠点としての図書館づくり」についての評価がないので、図書館業務をどのように取り組み、課題があるのかも記載すべきではないか。

◆周知については、区報やスクエアにも掲載しており、財団のフェイスブックやツイッターでは、互いにシェアやリツイートを行うことで現状あるものをうまく活用していきたい。

eラーニングのジャンルについて、歴史、文学が多いことは認識しており、実際、区民の方から、歴史、文学の気持ちは高く、理系の分野が少なめになっている。

しかし、理系分野の要望が少ないからやらない訳ではなく、講座実施の意義を優先していきたい。また、アイコンやタグ付けなどの見せ方は、取り組んでいきたい。大学への委託事業であるので、相談の上、ホームページの構成を考えたい。

◆文京区の蔵書は140万冊ほどあり、区民割合に換算すると、区民1人当たり6冊と、資料数は都内でも大変多い状況である。区内図書館は中小規模の施設が多く、武蔵野市のような大きな施設と同様の取組が難しい点もある。これまでは、開架資料の配置を優先しているが、近年は資料の貸出だけでなく、館内で読書を楽しむ空間づくりが、図書館に求められているのはご指摘のとおりである。そのため開架と閉架のバランスを見直し、空いたスペースに椅子等を増やすなど、または、特殊展示などを置くことで、利用者が楽しめる工夫はできると考えている。カフェ併設の図書館を要望する声は、利用者アンケート等でも頂いている。今後も、図書館運営にあたっては、利用者の皆さんにリラックスして楽しんでいただける空間づくりを心掛けていきたい。

◆ご指摘いただいた、13ページの基本方針4項目の、「エ 地域の学習拠点としての図書館づくり」の評価については、20ページ辺りから引用して作成したい。

② 分野別基本方針 学び続けるための活動の支援

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎14ページ、9行目に記載のあるふれあいサロンの幅広い層の参加を促進とはどのような層を狙っているのか。また、本庁で行われる活動も大切ではあるが、地域の活動拠点となる地域アカデミーや図書館で、地域の核となる活動をしていくことが必要ではないか。また地域アカデミーで行われている活動の内容把握やデータの収集を引き続きお願いしたい。

◆講座等シビックセンターでの開催が多い理由は、アクセスが良く気軽に来られる方が多い点も高い受講率の要因と考える。地域性のある講座は、地域アカデミーで行うことも良いと思うが、その活用方針として、講座等の受講者が、社会教育関係団体(サークル)を作り、地域アカデミーを利用するサイクルに繋げるために、講座はシビックセンターで、サークル活動は地域アカデミーでという住み分けも良いと考える。

◎ホームページの更新については認識しているが、社会教育関係団体名簿の紙媒体の更新は何年に一回行われているのか。窓口利用者は紙の名簿を利用することが多いので聞きたい。ふれあいサロンについては、窓口で興味を示す方も多いので、パンフレットだけでなく、他の資料も配架してほしい。

区民プロデュース講座については、相談によってクオリティが上がっていると実感している。手厚い相談体制という表現は相談業務に合致しないような気がするため、変更してほしい。

◆登録の更新は3年毎に行い、変更内容は月毎に随時行っている。

◆区民プロデュース講座の手厚い相談という表現については訂正する。

◎基本方針2には、ターゲットが異なる様々な事業があり、資格取得キャリアアップ講座は転職を希望している方や第二新卒の方がターゲットとなる一方で、生涯学習フェアは年配の方、ふれあいサロンについては主婦層がターゲットになると思う。そのため、セグメント分けしてマーケティングするように広報していかないと、全体の底上げにつながらないと考える。

◆事業対象が異なるので、ターゲットを絞るという趣旨については、興味のある方にピンポイントで広報が届くようにできることが一番だと考えている。

◆ふれあいサロンは区民部の事業であり、高齢者の利用が多いと聞いているので、

若い人へのPRは必要である。協議会で出た意見として伝える。

◎資格取得キャリアアップ講座についてeラーニング化は可能ではないか。

現実的には難しいが、大きな図書館等ができれば、一つ施設に多くの機能を備えるのが良い。たとえ限られたスペースだとしても、閉館後の時間でキャリア講座を実施するのは、資格取得をしたい社会人は夜遅くにしか参加ができないため、そうした方に有効的だと考える。

また、社会教育関係団体の要件とは何か、そして誰が審査しているのか。さらにこの団体への優先利用は、個人利用の後退につながる恐れはないか。個人と区の間でこのような団体が置かれることによって、個人は区にアクセスしづらくなるのではないかと、この点について伺いたい。

◆社会教育関係団体の要件としては、区内在住在勤在学者が半分以上、更にその半分以上が区内在住といった条件等である。優先利用に関しては、抽選申込期間が早いことである。区民主体の団体などを優先的にお使いいただくという趣旨である。一部誤解を招く表現については修正する。

◆資格取得キャリアアップ講座のeラーニング化について、本事業は日本女子大学生涯学習センターに委託しており、一部はオンライン講座や、オンデマンド配信ができるようになっている。時間についても、夜間のものが多く、昨今の転職者や離職者などへ最適な講座と考えている。周知については、経済課でも就労支援などを実施しており、様々な需要に答えていきたい。

◎記載順の話になるが、計画の順番どおりに見直してほしい。また、「昨年度」というよりも「令和4年度」と記載をした方がはっきりするのではないかと。

また、社会教育関係団体にアカデミー施設の利用を促すことは公的施設の利用を強制しているのではないかと。この団体は自由に学習活動をするもので、囲い込みになりかねないのではないかと。この団体が自発的にアカデミー施設を利用するよう、施設の魅力を高めていく必要があるという趣旨で、量的指標を用いて評価しているのであれば良いと思う。公的な施設を含め、民間の施設の情報も提供しながら、関係団体が魅力的に思える施設の利用ができるといいが、念のため確認したい。

◎14 ページの2 段落目の表記で、ふれあいサロン事業の利用で表記がとどまっているが、本事業の利用が地域交流そのものなのであれば、「ふれあいサロンの具体的な内容によって、交流、仲間づくりを推進することができた」と、「交流」という言葉を含めて評価した方が、よりの確だと考える。

◎社会教育関係団体の定義について、区が定義したのか。区で定義しているのであれば、説明があると良いのではないかと。

◎社会教育関係団体とは、社会教育法で定義が定められており、区ではいくつかの要件を設けているということだと思います。

◆すべての社会教育を区で担うことは不可能なため、地域で社会教育を行っていくことが重要だと考える。そのため、社会教育関係団体の登録制度を設けており、制度への登録によって一部施設使用料を減額し、地域活動を支援している。

### ③ 分野別基本方針 学びの循環による地域づくり

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎区民自身が企画する区民プロデュース講座なども活発に行われており、文京お届け講座や「文京学」講座など地域を学ぶものも充実しており、評価できる。

◎27ページの「文京学」講座について次年度に向けた取り組みに「生涯学習司との連携」とあるが、アカデミア講座の目玉でもあり、引き続き尽力していきたい。また、他の地域に比べて、アカデミア講座や学習支援者の人材育成など、資格をこんなに取得できるものはなく、仕組みづくりが見事で評価に値すると思う。資格をどう活用するかは、今後の課題だと考える。

◆「文京学」講座について代表的なものは、生涯学習司にお願いしている事業で、町物語という昔から地域に住んでいる方に地域の話をしていただく地域密着の講座があり、区独自のものであるため、今後も続けたいと考えている。

◎15ページの分野別基本方針③について、最後の3行で、資格を取った方が地域へ還元することが非常に重要だと考えるが、現実には難しいと思う。何か仕掛けづくりが必要ではないかと思うので、工夫があればお聞きしたい。

◎学びの循環による地域づくりで大変優秀だと感じるのが、生涯学習司やインタープリターやアカデミアサポーターの方々は協力的だと思っているが、一部の人に負担が集中しており、今後も持続していくには人的なサポートも必要と考える。区若しくは関係団体から人的サポートは可能なのか。

また、区民プロデュース講座でも、区へフィードバックしたいという発想の方が多いと感じており、一定程度活動したい方の分母はあるのではないかと感じている。

◎人的サポートの意見があったが、持続可能性を考えると、人材を確保しないと、いずれ終わりが来てしまう。そのためにも、担い手にはやりがい以外のメリットを提供することが必要ではないか。例えば、事業を営んでいる方については、その事業を区で広報するなど、コストをかけずにメリットを提供できる方法があると思う。講師の質を確保するためには、ある程度能力を担保に、何かしらの対価を提供することが必要だと考える。

◎ボランティアは基本的に無償で、やりがいを対価として考えてもらうということもあるが、それだけでは経済状況が厳しい中では続かないので、今の意見にあったような対価も必要という考え方もあるのではないか。

◆人材確保、人的サポート、人材育成について、ご意見のとおり一部の人材に負担が集中している点については認識しており、どのようなサポートができるかは、互いに知恵を出し合って、持続可能な運営ができるよう努めていきたい。

また、区民プロデュース講座については、どれもレベルの高い応募が多く、プロジェクトの募集、相談、応募という一連のサイクルが出来上がっているため、高レベルの講座が提供できており、引続き続けていきたい。

なお、スキルを習得した区民が担い手にという点については、講座を受けただけの人にはそこまで紹介できていないというのが現実である。できれば、講座を受けた方が社会教育関係団体等のサークルを作り、地域での活動に繋がる流れができると理想的と考えている。

ボランティア活動へのメリットの提供について、やりがい以外なかなか示しづらいのが現実だが、支援者とコミュニケーションを取りながら、何ができるか検討していきたい。

◎一部人材に負荷がかかるという点については、行政と協働作業だと考えているので、どちらか一方の負担にならないよう、これまでどおり上手くやって行きたいと思う。また、スキルを習得した方の人材活用については、一部受講者には単なる資格を取るためだけの人もいるので、行政が怠っているわけではないことを補足したい。

◎計画本書の18ページに学習活動の定義があり、学んだことを地域づくりに活かすといった記載があるが、スキルを持つ区民が地域活動の担い手となるための取組を推進するとあるので、もう少し学び、地域づくりへの橋渡しというものを主な取組に入れるべきだったと考えている。15ページの学びの循環による地域づくりの状況の文章では、地域の大学や関係団体と連携した実績について明記されているが、お届け講座や「文京学」講座についても学びの循環による地域づくりになると思うので、これらに対する評価も追記するといいいのではないか。例えば、NPOなどがどれだけ講座に関わったかなど評価に盛り込めると良い。

◆13～15ページの分野別基本方針ごとに、主要事業から抜き出して、状況を作成しているが、これらが学習活動分野全体の評価とは捉えておらず、ご意見を踏まえた上で入替等も考えていきたい。NPOとの関わりについてはどこまで抜き出せるか難しいかもしれないが、担当と相談の上検討していきたい。

全体を通しての意見

◎全体を通して、周知や広報が課題だと感じるので、ポイントはやはりSNSではない

	<p>か。コストはかかるが、インフルエンサーマーケティングで広めてもらうなど、行政で研究する検討の余地あると思っている。</p> <p>◎eラーニングの分野が文学や歴史などに偏っているのではないか言ったが、学問の重要性は、需要が多いか否かだけで判断できるものではなく、少数のニーズを守っていくことも重要だと思うので、排除するのではなく、より充実させていくよう進めていけばいいのではないか。また、事業周知については、内容より誰が発信しているかを意識することも大事だと思う。例えば区に縁のある方や出身者に協力してもらうことなどが考えられる。</p> <p>◎成果と評価の文書に「多様なニーズ」という表現が少なくなって、読みやすくなったと感じた。</p> <p>◎区は講座の実施であるとか、生涯学習司等も含め、区民参加の学習事業が盛んであると思う。分野によっては、参加率の低い講座もあるだろうが、社会的な課題に関する講座は、行政が実施していくべき内容である。全体を通し、質量ともに充実している。また、他の地域に比べ、区民の学習実施率は大変高い傾向にあり、今後事業周知に工夫を凝らし、知らない人に情報を伝え、参加を促せると良いのではないか。また、学習活動と地域づくりとの関連について、文京区は学習活動の分野が教育委員会ではなく、一般行政部局にあるため、他の部局と連携しやすいと思うので、個々の行政課題に基づいて事業を行っているその他の部局とアカデミー推進部が連携することで、学びを通じた地域づくりが、さらに成果を上げるのではないかと感じた。</p>
2 閉会	